

1.あなたは何者なのでしょう。

あんたを探してて。あんたはどこにいる。あんたはそもそもいるのかな。

ココロが減らないって本当? 終わらない存在って本当?

噂が噂を呼んで、噂という地盤の上に立つててる噂じゃないのかな。

もし、あんたが本当に存在するのなら。

私の目的は……。

あー……そろそろ、足りなくなってきたね。うん、そうだね。

ふうー、だいぶ歩いたかな。この辺り、なんだか涼しげじゃない? 確かに。

一面が緑。でも、視界が広いね。余計なものがない。

まあ、涼しかろうが蒸し暑かろうが、私の足しになりはしないか。そだね。

あー、足りない。足りないよ。まだ……終わりたくないなあ、……あー……。

ぐー……ぐー……、……。

……んう、うーるさい……、……んお?

……お、おー? おや、おやおや、おーはよう。

いやー、珍しいね。ひとだ。久しぶりに見た。

んしょ。あー、えっと、どうも。あんたは、どこから来たのかな。

……ええと。私は、迎エ火っていうの。

うん、迎エ火。……は。えびちゃん? そんな呼び方するひと、初めてだわ。

どこか変? 気になるところある? ……ああ、そう?

んで、あんたは何者さ? ……へえ、まあ、そういうひともたまにいるね。

大丈夫、気にしないで。でも、そうだなー、ここにいるという事は、

あんたもたぶん、そうなんだろうなあ。……教えないよ?

それは自分で解き明かさないと。

ああでも、お助けする程度なら。しばらく一緒にいてあげるけど。

お助け、ほしい? ……そう、分かつた。

そのかわり。私に、好きって言つてもらえるかな。……いいから、早く。

……はい、ありがとー。……んう? おやや。一回で……? うん、驚いた。

いやいや、こっちの話。……んー?

……あ? なにさ。私は言わないよ? だつて別に、好きじゃないし……。

あーあー、そんなに怖い顔しなくても。

ほら私っつき、あんたと違つて、それがないと終わつちやうんだよね。

ココロが、なくなつていくんだけよ。常に満たしてないと、終わり始めるから。

終わりの始まり。それ以上は、どう説明しようもないよ。

んー、しばらく大丈夫。でも最近はね、人影ひとつ見えない日が続いて、

そろそろ終わりかなあつて、ついさつきも思つてたよ。

さあ、そろそろ行こつか。……とにかく早く、歩いて。ほらほら。

訊きたい事があるなら、歩きながらいくらでも教えるから。

やー、ほんとさー、何もないよね。

緑とか、青とか、そればっかり。……私はね、気づいたらここにいて。

名前と、あとは、言葉? とか。あと、それなりの事は分かってるんだけど。

うーん、例えば、私は「ヤマキタ」っていうところから來たんだ。

そうそう、場所の名前。ここからだとちょっと歩くよ。

……んー? 目的、かあ……。あー、えっと、まあ、あるにはある。

ああ、でもさ、あんたも私の事言つてらんないよ。

早く何か見つけないとねー。……でないと……うん。

いやー……本当、どうしてこんなところに生まれちゃつたのかねー。

まあま、楽しい事もあるにはあるけど。

例えばほら、あんた。あんたと出会つたのは、楽しい事だよ。

普段はねえ、私、普段は独りで喋つてて、自分と話してるからさ。

こんな風に、目と目を合わせてお話するなんて、楽しくて仕方ないよー。

でーもー、あんたはそういうわけにはいかないじゃないか。

……つまり、終わっちゃうの。

何も見つけられずに終わったひと、たぶんたくさんいたよ。

え、……んー？ ミズ、……ああ、水？ おつ、て事は、思い出せたの？

水があれば大丈夫って事かな。……ゴハンってのは、なにさ。

よく分からぬけど、まあ、水は知ってる。たまに見かけるし。

ヤマキタにも、水があつたなあ。私には必要のないものだつたけどね。

んじやあ、そこまで行こうか。……はいはーい。こっちですよ～。

……ところであんた、ほーんと何も分からぬひとなんだね。

名前すらつていうのは、珍しいかな。残念だけど、最初に分からなければ、

どうしようもないと思う。私自身も、今以上の情報は分からぬから。

思い出すんじやなくて、何かを見つけて、それにすがつて生きていくの。

……あー、ちょっと、喋り過ぎたかな。ココロ、なくなるの早いなあ。

ごめん、もう一回くれる？ ほら、「好き」、を。

……んう、ありがとねー。もう平気だよ。

あはは。あんたは、水と、ゴハン？ が、ココロを満たす存在だといいね。

そのあたりまでは、まあ、付き合いますよ。

じゃあほら、行こう。終わらないためにさ。

2.とても素敵なところです。

ここがヤマキタだよ。いやー、スタート地点だねえ。戻つてきちゃつたねえ。

懐かしい景色だなあ。とっても素敵だよねえ。

でもやつぱり、なーんもないし、どことも変わらない。緑と青だ。

あ、ほらそこ、下見て。水が流れてるでしょ。

あつ。ちょっとー、走ると危ないよ。滑るから気をつけてねー。……やれやれ。

おーおー。今日もずっと止まらないねえ、水。見てて飽きないなあこいつの。

……お？ へえ、口に入れるんだ。そうやるんだねー。

どう？ ロコロ満たされるかな？

え、……そつかー、残念。ま、そういうもんだよ。気にすんな気にすんな。

いやいや、謝らないでよ。別にあんたは悪くないでしょ。

そーんなさー、くにくく頭下げてさー、こっちが申し訳なくなるでしょー。

ほら、次はゴハンってのを探そうか。それつて、どういう存在なの？

ふんふん、……ん〜？ いまいちピンと来ないけど。

でも、そんなにハツキリ分かるつていうなら、正解なのかな。

早く行こ。たぶんそろそろ、空の色が変わっていく時間だから。

そうなると、歩くのは大変だよ。

うん。……へつ？ ええ？ ……おあつ、ありがとー。

でもさー、あのさー、好きって言う時には、一言断つてもらつていいかな。

でないとなんか、ちょっと、うん。あ、いや、そういうのじやなくて。

ん？ ……あー、まあ、そりやね、ここまで生きてきたわけですから、

私も色んなひとに言つてもらつてたけど。

んー、あー、どうしよ。何と言うか、あんた以外のひとから言われたのは、

あんまり満たされなかつたんだ。だから、何度も何度も言つてもらつてたの。

でも、どうしてかな、あんたは一言で私を満たしてくれるね。不思議だねー。

……私つてさ、自分と喋るだけなら、全然ココロ減らないんだ。

だから、最後に好きをもらつてから、どれくらい経つたか忘れたけど、

でも、忘れるくらいの時間は終わらずにいられたんだよねー。

だから、最後に好きをもらつてから、どれくらい経つたか忘れたけど、

でも、忘れるくらいの時間は終わらずにいられたんだよねー。

それが今日はやばいよお。三回も満タンになつたのにさあ、

あんたと話してると、どんどんどんどんなくなつていくんだ。

あ、ひょっとして、……ああいや、何でもないよー。

ゴハンだね、ゴハン。探さないとねー、うんうん。

でもごめん、私それの心当たりがないからさ、一から探さないとだよ。

それまで、あんたが持てばいいけど……ちょっと不安だなあ。

あんたがいなくなつたら、私も終わりを危ぶむ立場になつちやうし。

こう見えて結構、焦つてるんだよー？ 目的達成せずに終わりたくないもん。

どうかな、ココロ減つてく感じする？ なんかこう、ぐああ、つて、

意識が遠のいていくというか、まともに考えられなくなつてくる感じ。

早いひとだと、一日も持たないで終わっちゃうからさあ。

……平気そうだね？ なんでだろう。もう結構、歩いたんだけどな。

こんなにお話しても大丈夫っていうのは、ううん、分からないなあ。
相当タフなのか、それとも、ゴハン以外の何かが源なのかなあ。

んー、謎だ。謎だらけだねえ、あんたは。

……あ、ああ？ うん、言つていいよ？ ……ん。はあー、満たされるなあ。

何か悪いね。私ばかり満たされて、あんたのは何一つ見つけられてないのに。

あんたがいる限りは、私、長生きできそうだよ。

こう見えて私、終わりたくないんだ。……そうは見えないでしょ？

いやー、あはは、何と言うか、感情を出すの苦手っていうかさー。

あんたはよく喋るよね。動きもなんか、素早いし。

よくそれでココロが持つなあ。ほーんと、珍しいねえ、不思議だねえ。

ああ、いいのいいの。あんたといふとすぐに補給できちやうからさ、

そんな事より、自分の心配をしなつてば。ね。

まあ、大丈夫そなら、ちょっと休憩挟もうか。一気に歩き過ぎたもんねえ。

ほらそこ、座れるところあるからさ、水でも眺めながら休もうよ。

3.神様なんて信じない。

すぴー…………あえ？ あ…………ごめえん、また寝てた。

わあー、もう空が青黒いじやんさ。真つ暗じやんさ。

んあー、起こしてくれればよかつたのに。見せるねえ、余裕見せるねえ。

……あ、そうなん。ありがとね。でも、そんな寝顔してた……？

……はあ？ ……そんな事をさ、言つてさ、私に何を期待してんのさー。

まあ、その、ありがと。寝顔とか褒められても、別に嬉しくないけどー。

つて、なんであんたが照れてんの。間抜けだなあ。マイペースだなあ本当。

……んんーーーーーー！ ふうあ。眠気が醒めたから、そこは感謝って感じかな。

……お？ なにそれ、その手に持つてるやつ。……木の実い？ ああ、なんか、

木にたまに生えるやつ。ほー、それが……ゴハン？ だつけ。ていうわけ？

どう？ ……あらら。それも違ったか。うーん、雲行き怪しくなつてきたなあ。

でもさ、変わらないんだよね？ ……はあ、そつか。そつか。ふうーん。

……ん。あんたはさ、私の事ばっかり心配してさあ。変わつてんなあ、もう。
んくくく。ねえ。

好き。

お？ おおう、びっくりした。あははー、何だその顔。

ごめんよ、ごめんよー。やー、ひよっとしたらって思つてさ。どうよ。

…………あつそう。違つたか。いやさ、言つてもらつてばかりじや悪いし。

何も感じないか。そつか。で、水もゴハンも要らなくて。

でもココロは減らない。いつまでも生きていられる。ふんふん。

じやー、やっぱりー、そうなのかなー。

あんね。さつきさ、目的があるのかつて聞いたじやん。

私は、神様を探してるんだ。いるのかどうかも分からなくてさあ。

でも、たぶん、この世界をさ、知らん顔して、どこかからずーっと見てる、

偉いひとがいるんじやないかなつて思つたわけ。

それつてたぶん、私達みたいな欠陥品じやないんだよねえ。

ココロとかなくならぬ、歩き続けたつて平氣……。

きつと私の事も見てて、生かさず殺さず、なんにも教えてくれないの。

……ちょうど、今……目の前にいるよね。そういうひと。

目的の二つ目を言つてなかつたね。

それはね、神様を……終わらせる事。

ねえ終わつてくれる？ たぶんあんた、神様なんじやないかなあと思うんだ。

……おつとつと、そんなに慌てなくともいいじやないか。分かつてるよ。

記憶がないんでしょ。どうしてここにいるかも、名前すら分からないんでしょ。

そりやあ、神様つて自覚なくたつておかしくないよ。

おかしくないから、それはそれでいいから、はい、おしまい。

ひとまず私は、私の目的を達成するために、あんたを終わらせまーす。

んふー。怯てるね。落ち着こ？ まず落ち着いて、ほら、深呼吸。

んく？ あつはは。否定しまくりだね。そりやあね、びっくりするさあ。

そうそう実はねえ、あんたに嘘ついたやつたの。嘘と言うか、意地悪かな。

はい、じゃあ……仲直りしようか。知ってる？ 仲直りの仕方。

手と手をね、こうして、……ほら。

……なーんか、ぽわぽわしてんね、あなたの手。

はーあ、こうしてると、ひとにしか思えないんだけど……。

それに、どうしてだろうね……。ココロ、満たされる気がする……。

少しの間、こうしても……いいかな？

4 新しい日の朝。

すぴー……すぴー……。

……ふあ。おー、おー……？ おーはよう。もう空があ、青いねえ。

んんー……！ ふひい。昨日は、……あー……疲れて寝ちゃったのかあ。

……んー？ おおーう、ちょっと、まじまじ見ないでくれるかな。ハズい。

んふふふ。昨日までさあ、命のやり取りしてたのにねえ。あれれー・

どうしようどうしよう。急にあんたの事が、愛おしくなつてきちゃつたよ。

ほんつとうにさあ、あんたつてえ、不思議なひとだねえ。

……やさしくしてくれて、ありがとうねえ。……嬉しかつたよ。

うわーうわー今の無し。無し無しつつう事で。ハツズ。あーもー。

あんまりさあ、気い許すと、また痛い目見るよ。

あんたと私は、利害が一致してるから一緒にいるだけだつて事、よおく理解してね。いい？

……よろしー。じゃあ今日も……歩こうか。ああ、その前に……、

私も、木の実を食べようかな。食べたらなんか、分かるかもしれないじやん。

あれってどんな感じなの？ ……ほーん？

なんとも、言葉だけじや分からぬえ。やつぱり試きないとダメだなあ。

そんじや、木の実探しからの神様探し、すたうと。

いやー、今日はたくさん歩くだらうなあ。たくさん喋るだらうなあ。

ココロ減るよね。いくら私でも、終わつちやうかもねえ。

誰かからー、「好き」をもらわないと終わつちやうねえ。誰かくれないかなあ。

……んねえ。昨日あんなにくれたじやんか……何で今日は……ねえ。

ねえーってば。……くれないの？

う。……あんた、結構……悪い奴だなあ。……そんなに私に……言わせたいの。

だつて、あんたはもらつても意味ないじやん……。

そうやって私に、無駄に言靈使わせて……寝首でも搔くつもりですかあ？

……あーもー、あーもーツ……。……す、……クツ……なにこれ、もう……。

……すき、です。ハイ。ツ……／＼……ツ。ううがああつ。終わるツ。

終わりそうツ、ある意味終わりそうツ……しんどツ。

お、あ、あんたツ、なに笑つてんのさツ。あんたが言えつて言つたんだろ！

……はツ？ ちょっと、さ、ほんと、あんまり図に乗らんでくれるかな？

なに、主導権……握ろうとしてんの？ あんただつて、私に……言わないと、

終わるんだよ？ いいのかなあ。……、いいんかいツ。

いや、ダメだよ、私は終わりたくない。お、お願ひだから、す、す、す、

好きツ……だから、好きツ。う、だ……大好きツ、ですツ！ はいつ！

……うううああ……なに言つてんだ私、くそ、くそ、くそ、ううあ。

ああ……そんな顔で……言うんじやないよ、もお……顔、見れないよ……。

え、なに……？ もしかしてこの先、ずつとこうなの……？

言靈もらうたびに私、こんな思いしなくちやいけないの……？

……ああ……これ、あんたの、昨日の仕返しつてわけかなあ。あはは……。

おあツ。ちょツ……何してんの。なに？ 頭になんかついてる？

……何それ。わけ分かんない事ばつかり言わないでくれるかな……。

まあ、でも、うん……悪くはない、かもね。うん。かもだから。かもかも。

あー……頭、変になりそう、だなあ。やつぱりあんた、神様でしょ……。

どう考へても、頭をそいやつて……手でさ、撫で回して、こんなにふわふわ、

いや、何か、熱くてジンジンしてくるの、おかしいじやん……？

何の力なのさ、それは。……あー、調子狂うなー。

うぎやーーー。ダメダメ、終わり。ほら、さつさと出発するよー。

新しい神様探しの、記念すべき一日目でしょー。行きましょ行きましょ。

……そうだ。

ヤマキタは、やつぱりスタート地点なんだねえ。私が最初に目覚めたのも、ここだつたからねえ。

どうしてだか、ゆかりのある場所なんだよなあ。それも不思議だなあ。

いつかまた、ここに戻つてくること……あんのかねえ。

その時はさあ、神様……見つかつてるといいな。

……それが、あんだけないことをさ……祈つてるよ。うん。

とりあえず、木の実……探そうか。

5.えびちゃんがえびちゃんに。

ひやー、なにこれ。なにこれ。でつかい水溜まりだ。……湖？ つていうの？

あんたは何も覚えてないくせに、いろんな事知つてんだねえ。

でもさあ、木の実はなんか……よく分からなかつたなあ。

んー。まあ、さつきも言つたけど、

特になにも、……口の中に入つて、飲み込んで、それだけだつたね。

やつぱり、そういうのは必要ないみたいだね、私達。

やーやー、しつかし、かーなり歩いたねえ。うーん、どうしてかな、足が……、

ちょっと痛い……のかな？ こんなに歩いたの、初めてだなあ。

歩き過ぎるところなるんだねえ。初めて知つたよ。

んで、この景色もなんか、初めてだよお。すごいなあ、すごいなあ。

あんたつて、私にいろーんな初めてをくれるねえ。ほとんどが初めてだよねえ。

あんたといふと、退屈しなくて済みそうだなあつて、いまさら思つちゃつたよ。うん。

……あんたはさあ、私と一緒にいてさあ、退屈とか……感じてない？

あ、いや、ごめん、忘れてー。何でもないよー。……、何でもないつたら。あーもー。

本当あんたつて……余計なところに食いついてくんだから。つたくもお。だつてさー……私、これまで会つたひとたち……終わらせてきたから……。

……終わつてほしくない、とか、あんたに……そんな気持ち抱いてんの、

すんごく馬鹿らしいでしょ？ ね？ 笑つていいよ、あはははは、つて。え……あ。そ、そっかー。ふーん。まあ、はい、そんなら、いいよ。うん。

あー……うああ、何だろうなあこれ。あー、…………あー……！ うーッ。

しんどいなあ。あんたの顔見ると、声聴いてると、しんどい。なにこれ。

げつ。……なんで、近づくのさ。どうして近づいたの。何する気さ。

……な、何か、言いなさいよ。こら。ちよ、あんたさ、もしかして……。

私の反応見て、楽しんでんじやないの。うわー、うわー、やめなよ、もう、

そういうのさ、悪い奴だよ、やつぱり。よくない奴だよ。ねえ。ねえってば。ぎあッ！ ちょツおあツ、ああツ、あ、なにツ、なになにツ、ひいいツ。

あ、あんた、何してんの。何、それは。えと、どういう、どういうアレなの？ 私をどうするつもりツ？ 逃げないよ、私は逃げませんから、落ち着いてつ。

ああ……なん、これ、すごい、ココロ、やつば、振り切れそう。てか、てか、振り切れるツ。おかしくなる。おかしくなるから、やめてツ。

うツ……はあ、はあ……。おおおう、……な、なん……、

なに……してくれちゃつてんのさ……。いきなり、そんな、ねえ、ちょっと。……う、うるさい、話を逸らさないでくれるかなあ？

な、何度も言うけど、あんた、本当に不思議だね。

まあ、うん、慣れしてきたけどね？

ま、うん、慣れしてきたけどね？

今のは、……ちょっと、ちょっとだけ！ びっくりしたけどさあ。

……ちょっとだよ。……ちょっとだから！ 何なのさ、その目はツ。

あんた、どんどん私の事、舐めてきてるねーツ？ 私、怒ると怖いんだよー？

今まで一度もさ、手出しきなかつたからあ。ここいらで一発、

この迎エ火の恐ろしさをお、その身に教えてあげようかなー！

ひああああツ！ おツオオオツ、おツお……！ おオツ！

や、やだツ、やめてツ、これやめてツ、変になる、馬鹿になるツ、

すみませんでしたツ、生意気なこと言つて、すみませんでしたツ、だからツ、離れてツ……！ ……う、……ふーッ……ふーッ……。

……う、ううう、あああ、やばい、やばいやばい……バレた……、

私の弱点、私も知らなかつたのに、バレた……どうしよう、どうしよう……。

……ハツ。あ、ああ、いや、……こほん。

いや、あんまり嫌じや……ないというか、むしろ、まあ、……イイ、というか。ねえあんた、すつごい顔ニコニコしててるよ。なんか、きらきら光って見えるし。ひょっとして、凄まじくココロ満たされてんじゃないの。

……ふうー……。ちょっとねえ、冷静に考えてみました。

なんとなく分かつてきただよ、あんたの事。

あんたさ、最初に目覚めて、私と出会つた瞬間から、ずっとと……

ココロ、満たされっぱなしだったんだね。だから……終わらないんだ。

やつぱり、あんたは……神様じやなかつたんだなあ。そつかあ。

……嬉しいよ。変な言い方かもしれないけど、さ、

神様じやなくて、ありがとうね。

ココロが減つたら終わる世界で、あんたみたいな、

ひとのココロを一瞬で満たせるひととね、こうして巡り合えて、

私はとつてもラッキーだなつて。うん。

でき、……今さっきのアレは、うん、私がなんか、変な事を言つちやつたから、あんた、気を利かせてくれたんでしょ？ ……それも、ありがとう。

……こんなにココロ満たされて、とつても……幸せつて感じ、するなあ。今まで、こんな事は一度もなかつたのに。知らなかつただけなんだねえ。やつぱり、知るつてのは重要なんだなあ。

……あははははははッ！ ひひッ、ふふッ、ふううッ。

ごめんごめん、なんか、おかしいなつてさあ。

知れば知るほど、この世界を分かつていけるんだなあ。

分かつた氣になつてるだけかな？

どちらにせよ、こんな世界を創つて、こんな私達を生んだ神様には、やつぱりひとつ文句言つてやらないとね。

……最後まで、付き合つてもらうよ？

ま、その、満たされっぱなしつてのも……不公平だよねえ。

……はい……これでおあいこ。

ふへへ。自分からすると、案外大丈夫だつた。……すつごい怖いけどね。

あんた、身体おつきいね。カチカチするし、私と全然違うなあ。

触つてみて、初めて分かる事つてのもあるねえ。木の実もそうだつたし。あなたの身体も、そう。

……あんたは、色々知つてゐたいだし、たくさん、教えてほしいな。見つけるのも、教え合うのも、……楽しかつたりするから。

たくさん、いっぱい、楽しい事……しようね。

(終)